

## 千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設の 看護管理者が大学に期待すること

### A study of what nursing administrators of training facilities in northeastern Chiba and southeastern Ibaraki expect from universities

富樫 千秋・市原 真穂・安藤 智子・大塚 朱美  
梅田 君枝・長島 緑・石津 みゑ子・池邊 敏子

Chiaki TOGASHI, Maho ICHIHARA, Tomoko ANDO, Akemi OHTSUKA,  
Kimie UMEDA, Midori NAGASHIMA, Mieko ISHIZU and Toshiko IKEBE

**目的：**千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設の看護管理者が大学に期待することを明らかにすることである。

**方法：**千葉県北東地区および茨城県南東部の病院および本学の実習施設である病院の看護管理者17名、千葉県北東地区（健康福祉センター2箇所と8市町）、茨城県南東地区（保健所1箇所と3市）の管理的立場の保健師17名、千葉県北東地区の高等学校の管理的立場の養護教諭5名にインタビュー調査をおこなった。

**結果：**病院看護管理者、行政保健師管理者に共通する大学への期待としては、【キャリアアップに向けての大学院のニーズ】【保健師活動向上に還元できる生涯教育の場としての大学への期待】であった。病院看護管理者、管理的立場の養護教諭に共通する大学への期待としては、一つ目は【地域と共生する看護学部への期待】と【大学と地域活性化を期待】であった。二つ目は【大学と実践現場双方向の関係づくりを期待】【双方向の協力関係づくり】であった。病院看護管理者の大学への期待は、【大学で育成してほしい看護職】であった。

**結論：**千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設の看護管理者が大学に期待することから、今後の地域貢献には、①キャリアアップの場・生涯学習の場の提供、②地域と共生して地域を活性化すること、③実践現場との双方向の関係づくり、④看護職の育成の4つが必要であることが示唆された。

#### 1. はじめに

団塊の世代の割合が今後急速に拡大し、現在人口の12%を占める75歳以上の高齢者の比率が、2025年には20%近くになる。それと同時に、75歳以上に限らず医療・介護の需要が急増する時、看護や医療・介護が必要に対応できるかは大きな問題である<sup>1)</sup>。今後急速に高齢化が進むと見込まれるのは、首都圏をはじめとする「都市部」である。千葉県は2004年時点の高齢者人口102

万人であり、2025年時点の高齢者人口は173万人と予想されており、増加数72万人、増加率71%、増加数順位は全国で4位である<sup>2)</sup>。このような高齢化が進む地域において、看護や医療・介護の現場が抱える課題は山積みであることが推測される。

千葉科学大学は、「地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参加すること」を地域貢献の目標に掲げている。平成26年4月に開学した看護学部においても看護や医療・介護の現場における地域貢献は重要な使命である。

看護学部は、将来、看護師、保健師、養護教諭を目指す学生が入学している。開学2年目を迎え、この地域の保健師・看護師・養護教諭が大学に期待することを明らかにしておくことは、今後、看護学部が担う地域貢献と

連絡先：富樫千秋 ctogashi@cis.ac.jp

千葉科学大学看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing,  
Chiba Institute of Science

(2015年9月30日受付, 2015年12月9日受理)

して何が必要かを考える上で重要なことである。

そこで、千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設の看護管理者が大学に期待することを明らかにすることが本研究の目的である。

## 2. 方法

### 2.1 対象者

#### 1) 病院看護管理者 対象者

千葉県北東地区および茨城県南東部の病院および大学の実習施設である病院の看護管理者17名

#### 2) 行政保健師管理者 対象者

千葉県北東地区(健康福祉センター2箇所と8市町)、茨城県南東地区(保健所1箇所と3市)の管理的立場の保健師17名

#### 3) 管理的立場の養護教諭 対象者

千葉県北東地区の高等学校の管理的立場の養護教諭5名

### 2.2 調査方法

インタビューガイドを用いた半構造的面接をおこなった。インタビューは病院看護管理者は教員4名で、行政保健師管理者は教員1名で、管理的立場の養護教諭は教員1名でおこなった。

### 2.3 インタビュー内容

大学に期待すること。

### 2.4 調査期間

#### 1) 病院看護管理者

平成26年10月21日～12月9日

#### 2) 行政保健師管理者

平成26年10月7日～11月27日

#### 3) 管理的立場の養護教諭

平成26年10月16日～10月30日

### 2.5 分析方法

#### 1) 研究デザイン

質的研究

#### 2) データ収集手順

インタビューガイドを作成し、対象者へインタビューを行った。インタビューの内容は、協力者の了解が得られた際にはICレコーダーで録音した。音声データを逐語録に起こした。

#### 3) 真実性/信用性の確保

すべての分析過程において真実性/信用性が確保できるようにメンバー間で解釈が一致するまで話し合いを重ねた。

#### 4) 分析手順

逐語録を繰り返し読み、その場において、何が起こっ

ているのか、感情や認識、行為はどのようなものであったかを把握した。

逐語録から語られた文章をひとつの意味のまとまりとして捉え、意味内容を損なわない程度の文章に切り分けた。これをデータの切片化という。

切り分けたデータを、その現象を述べるために、対象者自身が語った言葉や言い回しを利用して、要約・簡略化し、コードとした。これをコード化という。

類似する特徴、性質のコードを集めた。集めたコードを要約して命名し、サブカテゴリとした。サブカテゴリをまとめてカテゴリを生成した。これをカテゴリ化という。

コード化やカテゴリ化のプロセスは、多様な情報源からのデータにも関わらず、カテゴリについて新たな発見がない、カテゴリが持つ性質や変化、プロセスのすべてについて述べられている、カテゴリ間の結びつきがしっかりと安定しているの3つの点が確認されるまで繰り返した。

本文中では、カテゴリを【 】、サブカテゴリを《 》で示した。

### 2.6 倫理的配慮

病院看護管理者、行政保健師管理者、管理的立場の養護教諭に対して研究協力依頼文書を口頭で説明し、同意が得られた者を対象とした。

文部科学省、厚生労働省による平成26年12月一部改正「疫学研究に関する倫理指針」、および、平成26年12月「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守した。

## 3. 結果

### 3.1 病院看護管理者

病院看護管理者のインタビュー時間は平均49分(30分～70分)であった。

病院看護管理者の語りから181コードが得られ、14サブカテゴリ、4カテゴリに分類された。

大学への期待として、《看護を職業とする目的・自覚を育成》《看護を一生の仕事にしていける看護の魅力と厳しさの育成》《生活者として対象を看護する視点を持った看護職の育成》といった【大学で育成して欲しい看護職】について具体的にイメージし、《地域の課題を解決するために網羅してほしい教育》への期待や、《近くに大学ができたことで広がった視野や視点の期待》など、【地域と共生する看護学部への期待】を抱いていた。さらに、《アクセスの良い大学を利用したキャリアアップ》への期待や、《キャリアアップへの大学院への期待》など【キャリアアップに向けての大学院へのニーズ】、スタッフの《知識・技術の向上への支援》や《大学で実践現場の人材を活用して欲しい》、また《大学の施設利用

を希望》など、実践現場と大学がお互いに高め合い、リソースを利用し合うといった【大学と実践現場双方向の関係づくりに期待】していた。

### 3. 2 行政保健師管理者

行政保健師管理者のインタビュー時間は平均57分(39分～72分)であった。

行政保健師管理者の語りから、9サブカテゴリ、1カテゴリに分類された。

保健師への専門性を守り、質を向上するための条件として【保健師活動に還元できる生涯教育の場としての大学への期待】をもち、《千葉科学大学は近くて気軽、継続して学べる場を期待》《継続して学びたい》など、大学を継続して学べる場として期待していた。

### 3. 3 管理的立場の養護教諭

管理的立場の養護教諭のインタビュー時間は平均39分(21分～49分)であった。

管理的立場の養護教諭の語りから35コードが得られ、3サブカテゴリ、2カテゴリに分類された。

医療知識や処置の最新情報、外来や医師の情報を得るような場を望んでおり、《大学に講師・研究指導・教材の使用を依頼したい》と考えていた。また、共同研究の

身近な存在や、学生と生徒の交流など《大学と協力関係を築きたい》との思いがあり、【双方向の関係づくりに期待】していた。

また銚子は高齢化で若者が少ない為、活気を市全体に与えてほしいといった《大学と地域との交流で地域を活性化して欲しい》と【大学との地域活性化を期待】していた。

### 3. 4 三つの職種

病院看護管理者、行政保健師管理者に共通する大学への期待としては、【キャリアアップに向けての大学院のニーズ】【保健師活動向上に還元できる生涯教育の場としての大学への期待】であった。地域の病院看護管理者、行政保健師管理者はキャリアアップの場、生涯学習の場として大学に期待していた。

病院看護管理者、管理的立場の養護教諭に共通する大学への期待としては、一つ目は【地域と共生する看護学部への期待】と【大学と地域活性化を期待】であった。二つ目は【大学と実践現場双方向の関係づくりに期待】【双方向の協力関係づくり】であった。病院看護管理者、管理的立場の養護教諭は、地域と共生して地域を活性化すること、実践現場との双方向の関係づくりを大学に期待していた。

表1. 病院看護管理者・行政保健師管理者・管理的立場の養護教諭が大学に期待すること

対象	カテゴリ	サブカテゴリ
病院看護管理者	大学で育成してほしい看護職	看護を職業とする目的・自覚を育成 生活者として対象を看護する視点を持った看護職を育成 看護を一生の仕事にしていける看護の魅力と厳しさの育成
	地域と共生する看護学部への期待	看護師の育成は高等教育の価値の共有が重要 地域の課題を解決するために網羅してほしい教育内容 近くに大学ができたことで広がった視野/視点へ期待 大学が身近になったことで看護の質向上を期待 学生と多様な取り組みを希望
	キャリアアップに向けての大学院へのニーズ	アクセスの良い大学を利用したキャリアアップ キャリアアップに向けての大学院のニーズ
	大学と実践現場双方向の関係づくりに期待	知識・技術の向上への支援 研究スキルを高める支援の期待 大学の施設利用を希望 大学で実践現場の人材活用
行政保健師管理者	保健師活動向上に還元できる生涯教育の場として大学への期待	継続して学びたい 大学と業務評価を一緒にしたり、研究方法の指導を受けたい 大学はできるだけ保健師に興味がなくなることへの不安 千葉科学大学には近くて気軽、継続して学べる場を期待 働きながら通える大学院を希望 学習の場を作って欲しい 今までは大学院が遠い存在 スキルアップのために自主的に学習中 学生実習を通してお互いの学びを期待
管理的立場の養護教諭	双方向の協力関係づくり	大学に講師・研究指導・教材使用を依頼したい
	大学と地域活性化を期待	大学との協力関係を築きたい 大学と地域との交流で地域活性化してほしい

病院看護管理者の大学への期待は、【大学で育成してほしい看護職】であった。

三つの職種の結果を、総合すると今後の地域貢献には、①キャリアアップの場・生涯学習の場の提供、②地域と共生し地域を活性化すること、③実践現場との双方向の関係づくり、④看護職の育成の4つが必要であることが明らかになった。

#### 4. 考察

浅井ら<sup>3)</sup>の千葉県内医療施設(病床数200床以上)に勤務する看護管理者を対象とした研究では、近隣大学に期待することとして、「臨床看護師が勤務しながら進学できる教育課程」「看護師のキャリア開発への意識を啓発するセミナーの開講」「看護基礎教育でのキャリア教育」「大学教員の教育経験を活かした教材開発や講義の実施」という4つのカテゴリが明らかになっている。

本研究でもキャリアアップの場・生涯学習の場の提供と実践現場との双方向の関係づくりが大学への期待することとして明らかになっている。浅井ら<sup>3)</sup>は千葉県内の医療施設(病床数200床以上)を対象としており、本研究は、おもに千葉県北東地区・茨城県南東地区の看護管理者を対象としている。キャリアアップの場・生涯学習の場の提供は地域を問わず千葉県の看護職が大学へ期待することだと考えられた。

本研究では、《看護を職業とする目的・自覚を育成》《看護を一生の仕事にしていける看護の魅力と厳しさの育成》《看護を一生の仕事にしていける看護の魅力と厳しさの育成》といった【大学で育成して欲しい看護職】が具体的に明らかになっている。任<sup>4)</sup>は、「看護の高度化」要請の背景には、医療技術の進歩や疾病構造の変化、人口の高齢化、併発疾患を持った患者増加などに加え、患者の生活や考え方の多様化に伴い、医療においても自己決定が必然となり、その対応が不可欠となったことが大きく影響していると述べている。また病院では、看護の機能として、チーム医療の中心となって多職種間をつなぐ役割や、患者の生活に治療内容を合わせる調整役割、院内(外来・病棟)だけでなく地域を含めてつなぐ役割が期待されているとしている。今回の結果でも、即戦力のある人材の育成を期待しているのではなく、生活者である患者一人ひとりに丁寧にかかわり、患者の生活に注目できる、看護職として目的、自覚をもった人材の育成が重要であることが伺われた。

現任の看護管理者が、大学に「地域と共生し地域を活性化すること」を期待するという事は先行研究では明らかになっていない。今回の研究対象とした千葉県北東地区・茨城県南東地区の看護管理者に特徴的な結果であると考えられた。このことから地域と共生し地域を活性化することに大学が取り組んでいくことが重要だと考え

られた。2015年5月31日に千葉科学大学看護学部棟でおこなった看護の日のイベント<sup>5)</sup>のように、看護学部の学生たちが健康サポーターとして住民の健康チェックをするなどのイベントを継続して実践していくことが必要だと考えられる。学生にとっては地域の住民と触れ合う学びの場となり、住民にとっては健康の維持と増進の機会となりうるからである。青森県看護協会では<sup>6)</sup>、「まちの保健室」活動に力を入れており、看護協会に登録している協力員が、週1回、地域住民の健康相談にに応じている。青森県の例のように今後、大学が「まちの保健室」の機能を果たせば、地域に根付いて地域住民の健康の維持、増進にさらに寄与していけるのではないかと考えられた。

#### 5. 結論

千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設の看護管理者が大学に期待することから、今後の地域貢献には、①キャリアアップの場・生涯学習の場の提供、②地域と共生し地域を活性化すること、③実践現場との双方向の関係づくり、④看護職の育成の4つが必要であることが示唆された。

(本研究は、千葉科学大学看護学部第1回看護実践連携研究会で発表したものを加筆・修正した。)

#### 引用文献

- 1) 坂本すが, 西村周三, 松村啓史: 2025年問題をみせたこれからの看護を語る, 看護, 65 (1), 22-29, 2013.
- 2) [www.mhlw.go.jp/shingi/2006/09/dl/s0927-8e.pdf](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/09/dl/s0927-8e.pdf)  
2015年9月23日アクセス
- 3) 浅井美千代, 三枝香代子, 白鳥孝子, 佐藤まゆみ, 広瀬由美子, 田口智恵美: 看護管理者のとらえた看護師のキャリア開発上の課題と近隣大学に期待すること, 千葉県立保健医療大学紀要, 5 (1), 71-76, 2014.
- 4) 任和子: 臨床現場より, 看護系大学に期待すること, 日本看護科学会誌, 30 (2), 113-115, 2010.
- 5) 広報ちょうし: ヘルスチェック! けんこうGET! 千葉科学大学 看護の日イベント, 1162, 11, 2015.
- 6) 公益社団法人青森県看護協会: 青森県, 看護, 65 (8), 6-8, 2013.